

第6回 佐賀県総合運動場等整備基本計画検討委員会 議事要旨

▶開催日時

平成29年3月27日(木) 15:00～16:30

▶開催場所

ホテルニューオータニ佐賀

▶出席者

委員：岸川委員(鳥栖市スポーツ推進委員)、
小早川委員(久光製薬(株) 久光製薬スプリングス 副部長)、
今委員(フリーランス・プランナー)、
坂元委員(佐賀大学教育学部 教授)、
竹原委員((株)サガン・ドリームス 代表取締役社長)、
田部委員((株)JTB 総合研究所 コンサルティング第三部長)、
馬場委員((株)オープン・エー 代表取締役社長)、
原田委員(早稲田大学スポーツ科学学術院 教授)、
東島委員((公財)佐賀県体育協会 理事長)、
藤井委員((一社)佐賀県障がい者スポーツ協会 指導員)

事務局：白井文化・スポーツ交流局長、大川内副局長、原スポーツ課長、
スポーツ課担当

関係課：政策課、財政課、企画課、国民体育大会・全国障害者スポーツ大会準備室、
県土企画課、都市計画課、建築住宅課施設整備室、道路課、佐賀土木事務所、
県民協働課

▶内容

- 1 開会
- 2 あいさつ(文化・スポーツ交流局長)
- 3 説明事項
整備基本計画策定までの議論の流れについて
・事務局より資料1の説明。
- 4 報告事項
佐賀県総合運動場等整備基本計画について
・事務局より資料2の説明。

5 意見交換

施設の活用等に向けた今後の戦略について

【坂元委員長】

- ・施設の活用等に向けた参考事例紹介ということで、原田委員と今委員より資料をいただいております。
- ・それでは、原田委員からよろしくお願いします。

【原田委員】

- ・映像で事例を紹介したいと思います。まずは、8時間で土間コンクリートの床を体育館の床にするシステムです。NB Aの事例になります。日本では資料にもあるとおり横浜国際プールがあるのですが、こちらのほうがはるかに優れています。
- ・アリーナができれば、このような感じで展示会をやった次の日はバスケット、あるいはバレーなど色々なスポーツイベントができるようになるという参考事例です。
- ・これを導入すると非常に大きな収納場所があることにはなりますが、イメージはこのような感じです。
- ・もう一つは大阪エヴェッサというチームがチームラボと組んでスマートフォンのアプリを使って行った演出の紹介です。スマホを振ることで、マスコットにエネルギーを与えるというアプリになります。このような取組みを使って昨年の平均が5,000人ぐらいまで増えています。
- ・私からは以上です。

【坂元委員長】

- ・次に今委員の説明をお願いします。

【今委員】

- ・今後、整備計画の具体化が重要になると思いますので、これからは委員ではなく、そちらに座られている行政の人たちに考えてもらいたいという思いで、わかりやすくするように頭をひねって考えてきました。
- ・今回の整備計画がアリーナに注目しているのは非常にありがたいです。特に中央エリアが一番新しくなると思いますが、ここのアリーナが人を集める集客施設になるということだけではなく、日常的に人で賑わうことを目指しているのではないかと思います。ただ単にイベントやコンサートをやったことで人が集まるのではなくて、佐賀市の中の人の動きが変わったなというくらいにならないと、この整備計画の最終的な結果、いわゆる目標とするところは達成できないのではないかなと思います。
- ・ただ単に口で言っているのは簡単です。そこが結果を求めるとのことだと思います

が、日常的に人々で賑わう場所にするためにはどうするのかを考える必要があります。建物は建ちます。ただ、その建物を建てるということが今回の整備基本計画の目的なのかなというと違って、建物は一つの集客装置としての機能であって、あくまでそれを使いこなさない限りは、人の動きも変わらないし、人も集まらないことになります。

- ・そこで考える必要があるのは、そこにどんな優れたノウハウを導入できるかどうかというところだと思います。これは今後の焦点だと思います。
- ・結果を出すためにいろいろ考え方を整理して、まとめて、目的をはっきりさせ、その上でアクションを起こすということの骨子は整備計画でできています。そこを徹底して追求することが必要だと思っています。そのことをどうやってイメージしたらいいかなということを1枚目で作りました。
- ・2枚目、それではどうするかというところを具体的に言えば、先ほど言いましたとおり、すぐれたノウハウを導入することになります。例えば、中央エリアにある新しい商業施設にどういうテナントを常設で設置して、どういう商売をそこでしていくのかということを考える必要がありますが、その前に、このエリア全体をどのような空間に設計して構成するのというところや、とにかく毎日でも来たくくなるような日常的な場所にするためにはどうするか、それらを最適化した形でどうプロデュースするかというのが大事になります。そこに地元の特色や地元の企業さん等々のパワーを巻き込んでいくという図式になると思います。そこで必要になるのは、全体の価値観をつくるためのプロデュース能力ということになります。
- ・恐らくこれは人によって考え方はいろいろあると思うのですが、私は常に人間が生きていく上で重要だろうと思う「衣」「食」「住」で考えます。「衣」というのは、要は単純に言うとファッション性、人を楽しくする、楽しくさせるという部分です。「食」は日本のスポーツ施設でよく問われていることです。食べものを出しとけばいいだろうということではなく、食べ物自体が人の心を豊かにするといえますか、食べる場所の雰囲気とか、そういうものを含めての「食」になります。それから、「住」はそのエリアに行くだけで何かすごい気持ちいいよね、快適だよねというような居心地のよい場所という感覚で捉えています。そういった「衣」「食」「住」という観点からも、いろんな考え方ができるのではないかなと思います。
- ・元に戻って事業ノウハウになります。全体をプロデュースするノウハウというのはどういふことがあるのかを紹介します。そこに地元の企業さん、それから産業、当然地元の特色を生かしたものが入り込んでくるわけですから、それを一本に束ねて、一つの価値観、魅力をつくっていかなければならないという作業になります。それが一番時間かかるし、地元の人たちが考えなければいけないことでもあります。これはなかなか理解が難しいと思うので、3つ事例を持ってきました。
- ・3枚目が、これは皆さん御存じのとおり、MAZDAスタジアムです。観客動員数が

- 向上しているということをよく言われています。私はもともと伊藤忠商事にいたことでもあるのでわかりますが、日本の商社は中で何をやっているかわからない組織です。その中で、日本の総合商社は意外と特色があって、伊藤忠だと繊維、三菱商事だと重工が強いです。その中で、三井物産というのは食の分野が強い商社です。今はどこでもやるのですが、系列にいろんな子会社があって、とにかく幅が広いです。物産がスポーツに乗り出してきたきっかけが実はマツダで、ここに乗り出してきたときにスタジアムの中の食をまず改善しようということで、この中心になったのが右にあるエームサービスという会社です。このエームサービスは一緒に仕事したことがあるのですが、食は全部トータルでコーディネートします。こういう施設だったら、エリアだったら、どんなイメージで、どんな特色を生かして、誰を連れてきたらいいかということまで全部プロデュースして、その上でテナントを選んで運営まで行う会社です。アメリカのアラマーク社と提携していて、オリンピックやワールドカップのときも、彼らは選手村とか、そういうところのフードサービスを全部請け負っている会社です。
- ・新しくできた三井物産フォーサイトというのは、これはスポンサーシップからスタジアムの中のマーケティングまで全部取り扱っているのですが、こういった形で三井物産グループとしてスタジアムビジネスに乗り込んできているというケースがこのケースです。実際に今、同じグループ、特に物産関係はエームサービスの例が下にありますが、色々なスタジアムに乗り込んできているところです。
 - ・それから、次のケースが、これもちょっと面白いですが、パナソニック。皆さん御存じのとおり、もともと家電製品の製造販売をやっていた会社です。現在、物品を納品するだけではなくて、物品の運用まで全部携わっています。皆さんは頭の中に象徴的に残っているのは、リオデジャネイロの開会式、閉会式だと思います。あの演出機材は全部納品しています。ただ、オペレーションまで全部携わったのはリオが最初だそうです。
 - ・今、パナソニックは「B to C」ではなく、「B to B」のビジネスにシフトしようとしていて、その一つの具体的な事例がスポーツ事業に乗り出すこととなります。実際に何をやっているかといったら、楽天のホームスタジアムの宮城スタジアムでパナソニック製だけではなくて、あらゆるメーカーの製品をトータルで全部統合して、これを一括管理するシステムを運用しています。常設のカメラも全部備えつけられており、ここで得られた映像やデータが、選手の強化とか育成にも生かされているそうです。
 - ・つまりは、こういったところと組んで、これから設備とかシステムの導入を図っていくと思うのですが、問題は機械をどう使うかということです。そこを改善しようとしているケースです。恐らく日本の弱いところというのは、そういう使い勝手のノウハウというのがないところなので、こういったノウハウの導入というのもひとつ考えていく時代ではないかなと思います。

- ・それから、最後は、IT企業のSAP、これはドイツのサッカーチームの強化にも貢献している企業ですが、ここが実質所有しているアリーナがあります。残念ながらアイスホッケーとハンドボールのチームしかないのですが、マンハイムという、超大都市ではないところにあります。実際にここはアリーナの所有者が全て運営まで携わっています。何がすごいかというと、このアリーナの所有者が、ここのアリーナを使用する利用者、いわゆるイベントの興行者、主催者に対して観客サービスとか、それから、イベントで使うさまざまな機材のオペレーション、こういったソフトを全部提供しています。スタジアムアリーナの運営者が、利用者に対して全て提供しているというケースです。これ、何がすごいかといたら、ここのアリーナを使用する利用者としたらコストかからないことです。要は、行けば全部やってくれる、やるべき設備があるという状態で行けます。当然、使用料はそんなに安くはないです。それだけのサービスになりますから。ただ、サービスに対応する対価、その対価に対する価値というのがあります。要はアリーナ、このスポーツ施設の価値観を出しているケースです。残念ながら、これは公共の施設ではないので、一つの事例になるかどうかはわかりませんが、SAPの力をうまく利用しているというケースなのでご紹介しておきます。
- ・最初に話を戻すと、とにかく箱物をどうやって生かすかというところで、ノウハウをどうやって佐賀県さんがここに引っ張ってくるか。これは別に日本に事例がなくていいです。事例つくっちゃえばいいと思います。
- ・1つ最後に。話が違ふのかもしれませんが、明治維新150周年の何か記念のイベントがあるようで、このチラシには、西洋の科学技術を取り入れた佐賀藩は、日本近代化のトップランナーだったと書いてあります。事実、産官学と言っていいんですかね、マイクロソフト社との提携とか。要はIT分野に関しては物すごく教育的な部分で佐賀県は進んでいらっしゃるとお聞きしたことがあります。そういった部分からいっても、今回の施設及びエリア全体の活用方法に関して、既存の頭でなく、これからの時代のことを考えつつ、佐賀県さんらしい発想で、新しいものをどんどん導入していくという発想で、この計画が進めばいいなと個人的には思います。以上です。

【坂元委員長】

- ・ありがとうございました。まさしくこれからの時代、スポーツ、特に「観る」スポーツに関しては、総合的な知を集集していかないといけないという思いが新たにしました。
- ・議論の途中で今委員が、管理運営をどうするかというところをかなり言及されました。今の説明を聞いてみると、そのノウハウを集積してやっていかない面白くないということがよくわかりました。今後、こういったところが議論の焦点になるかと思いません。ぜひこの知識をいろいろ皆様方に伝えていただければと思います。
- ・特にまだ佐賀県民は、アリーナ「観る」スポーツ、「見せる」スポーツ、こういったも

のにまだほとんどコミットしておりません。サッカーがいいところだと思います。佐賀はこれからだと思います。そういった意味で貴重な資料を提供いただきました。

- ・もうすぐ知事がお越しになりますが、知事との意見交換の際には、基本計画にある「する」、「育てる」、「観る」、「支える」、「憩い、にぎわう」、この5つの視点で議論を進めていきたいと思っています。知事が到着し次第、お招きいたしますので、それまで5分ほど休憩したいと思っています。

<休憩>

【坂元委員長】

- ・それでは、知事がお越しくございましたので、限られた時間ではありますが、いろいろなテーマで意見交換をしてみたいと思います。
- ・私のほうからは既に申し上げておりますように、この基本計画の「する」スポーツ、「育てる」スポーツ、「観る」スポーツ、「支える」スポーツ、「憩い、にぎわう」スポーツ、このあたりのテーマで御自身が興味を持たれているところでどンドン知事と意見交換をしていただければと思っています。
- ・それでは、知事のほうから最初に基本計画にかける思いをお願いします。

【山口知事】

- ・皆さんどうも本当にお疲れさまでした。今回で6回目ということですかね。本当に精力的にお話しいただきまして、だいぶ感じも出てきたのかなというふうに思います。
- ・この前、釜石にラグビーの関係で呼ばれたときに、今美術館で開催している池田学の絵の話をしました。釜石のラグビー会場というのは、私が3年前に行ったときには本当に何もなくて、こんなところでワールドカップができるんだろかというようなスタジアムです。でも、2年後にはワールドカップの試合が2試合、もしくは3試合開催される会場です。私はこの絵の話をその時にしました。池田学という佐賀県多久市出身の絵ですが、3年半かけて、チェザンミュージアムというアメリカのウィスコンシン州で描き上げた絵になります。この絵の下を見ると瓦礫や津波の跡とか、そういったものが残っています。人は苦しくてもつらくても、前を向いて真っすぐ花を咲かさなければいけない宿命にあるみたいな話をしたら、確かに3年前に釜石は、みんなは仮設がある中で、何がワールドカップねという話もあったわけですが、その中でも前に行こうというぎりぎりの決断をしています。そのときに私もずっと釜石に行っていました。そんなこともあり、この絵を見せたら、みんなこの絵すごいねって言うてくれました。これは実は小さいですが、実際はあの白い壁よりもっと大きいです。これはペンで描いているので、1日にちょっとしか描けないような絵なので、こういう人の気持ちを動かすってすごいなと思っています。

- ・今回つくるものも、こういうインパクトのあるやつにしたいです。特に彼はすごいメジャーにはなっているのですが、自分のこういう思いを持ったのが佐賀の土地だからという思いが強くて、中に唐津線がぶら下がっているなど自分のその当時の思い出が詰まった感じの細かい絵なんです。
- ・また、私はここに来る前に、熊本の恵楓園というハンセン病の患者さんのところに行ってきた、実は話せば長くなるんだけど、簡単に言いますと、日本は昔にハンセン病の隔離政策をやっていて、私が去年行ったときに、知事さん、昔僕らは昭和40年代とかに鐘を鳴らして見送ったというわけですよ。出所できる人、なかなかその先に夢とか未来に希望が持てなかったというんだけど、そのために鳴る鐘というのが僕らの夢だったというんだけど、その鐘が鳥のフンでもう50年ぐらい鳴っていないという話を聞いて、じゃ、復活させようということで、1年がかりでやっていた鐘が、今日50年ぶりに佐賀県の子供たちと一緒に鳴らしに行ったんですよ。熊本の合志というところだけど、佐賀県のみんながこれから間違いを二度と起こさないように、人を偏見、差別しないようにというような思いで行きました。
- ・今日は何というんでしょうか、そのような感動、そして、未来とか夢とか、そういった部分を育むような形で、単に今までみたいにスポーツをただして、「頑張れ」とか「努力」とか、そういうだけではなくて、もっと人生の豊かさみたいなものがさまざまな、いろんな人の思いがある中でスポーツというのはあるわけだし、スポーツだけではない、いろんな芸術もそうだし、コンサートもそうだけど、そういう人の思いはマルチなので、マルチな思いにしっかりと対応できるようにしたいと考えています。
- ・しかし、だからといって、細かいことをがたがたがたやるような感じじゃなくて、実は人のシンプルな思いというか、シンプルな装備、施設にして、それがなぜかいろんなソフトの力によってマルチ対応ができているみたいなものにしていきたいと考えています。
- ・原田先生をはじめこの委員会は素晴らしいメンバーです。原田、馬場というだけでもすごい大変なことなんです、僕らからすると。坂元先生、よくまとめていただいていると思います。何というんだろうか、人の思いの詰まったようなものになっていると思います。ですから、これは行政が形を決めたから、そこで決まりだと言う必要はないと思っていて、皆さん方の話なんかを聞きながら修正をしていく、さらにいいものにしていくという過程が大事だと思います。その過程は全部オープンにして明らかにしていくということをしっかりやっていくというのが佐賀県の仕事の仕方なので、ぜひ皆さん方も本当に好きなことをおっしゃってください。
- ・今さんから言われたから広島を見に行ってきましたし、私も指示どおりにちゃんと働きました。本当に皆さん方の思いをしっかり受けとめてやってきたいなというふうにも思っています。
- ・そして、佐賀にはサガン鳥栖だったり、久光だったり、本当にもう願っても来ていた

だけないようなすばらしいプロスポーツも根づいているわけですから、そういったものもうまくみんなで肩を組みながらやれる環境をして、私はむしろ、世界基準なものを、特にここの部分で、ソフトの部分で世界基準なものを佐賀の地からやっていきたいと思います。

- ・竹原さん、アトレティコマドリードが来たときなんかわくわくしますね。ああいう、別に佐賀だからという、むしろ、佐賀だからこそできるのではないかなというふうにも思います。思いを言わせれば、1人で最後までしゃべってしまうので、思いが強いことだけ伝わっていただければ、あとは皆さん方どうぞ自由な意見を言っていただくことを楽しみにしています。
- ・来年は幕末の150年の博覧会をやりますけれども、それから、高文祭や国体だとか、ラグビーや東京オリンピックもありますから、我々にとってすばらしい環境のもとになるとと思いますので、これからも佐賀県を一緒に盛り上げていくためによりしくお願いしたいと思います。

【坂元委員長】

- ・どうもありがとうございました。
- ・皆様のほうでいろいろ御意見があったらどんどん挙手の上で意見をさせていただきたいと思いますが、知事のほうでどんどん指名していただいても構いません。

【山口知事】

- ・今、少なくとも私が名前を言った人については一言いただけたらと思います。

【坂元委員長】

- ・先ほど名前が上がった方で御意見のおありの方は、どうぞよろしくお願いいたします。

【馬場委員】

- ・思いを伝えるというのを引き継ぐと、僕はこの空間が身近にある究極の憧れの場所であって欲しいという思いが強くなります。というのは、僕も佐賀で陸上とかサッカーをやっていて、あそこのグラウンドで走る、サッカーをやるというのは準決以上とかじゃなければやれなかったのが究極の憧れだったんですよ。だから、ここがもっと究極の憧れであり続けてほしいというふうに強く思います。
- ・それで、県民の日常のためにということと、プロのための究極の空間であるというのは、僕は矛盾しないと思っています。佐賀でスポーツをやる人間はあそこでやりたいと思うのは、トッププレーヤーがやったグラウンドで自分もできるという感じがたまらないと思うんですよ。だから、例えばライブでもいいです。スポーツでもいいです。アリーナでもグラウンドでも、トッププロがやっていて、そこで鳥肌が立つような経

験ができる場所でスポーツをすることが重要で、そうなると、いやでも日常のスポーツに気合が入ります。聖地が身近にあるという感覚はすごい重要で、ただ、職業柄「空間」に翻訳したとすると、やっぱりそこでライブがあったり、プロの大会があったときは、その場所空間自体がうわーっと盛り上がっていて、明るく輝いていて欲しいんですね。

- ・ドイツのワールドカップの決勝のアリアントスタジアムというところでは、うわーっと色がついています。スタジアム全体が光っていて、あのぐらいやっぱり究極の興奮空間であってほしいです。ただ、日常のときは居心地がよくて、隣でお茶とかしながら、「うわ、俺、いつかこのグラウンドでやりたいな」と思うような場所であって欲しいというふうに思うので、やっぱりすごく華やかにするインフラを持ちながら、日常的に使っても、ただ買えたり、飲んだり、遊んだりというふうな、そういうような場所づくり、空間づくりみたいなものを目指していくべきだろうなというふうに思っています。
- ・基本計画書はそういうふうになっていると思います、私も思いだけを伝えました。

【山口知事】

- ・この学君は、美術館ですごいヒット作であり、10万人ぐらいが来たことになりましたが、その中でやっぱり一番自分の原点として、同じ美術館に自分の子供のころから、高校のときにつくった絵が掲げられているシーンがあります。それが原点で自分たちの夢の扉、ここで自分が小さいときに飾ってもらったあの美術館、いつか県美にということと同じように、スポーツの選手たちもそうだけれども、あそこで昔、あのプロを見たとか、この前、朝夏まなともそう言ったよね。たまたま宝塚を見たから、ああ、これはいいと思ってトップスターまで行ったわけですよ。だから、そういうの、すごく起こりがちなことなので、この佐賀では。だから、本当に障害者もそうです。もう本当に何か自分が近づけるんじゃないかなという、そういう空間をつくりたいなというふうに思っています。馬場さんも佐賀出身で、最近やっと会議に来てもらえるようになって、鮭が川に戻ってきたようで嬉しいなと思います。

【原田委員】

- ・それでは、私のほうから。
- ・知事に見に行っていたきたい公園があります。池袋の西武線側のほうに南池袋公園です。

【山口知事】

- ・行きました、行きました。

【原田委員】

- ・もう行かれましたか。

【山口知事】

- ・行ってきました。誰かに行けと言われて。

【原田委員】

- ・「RACINES／ラシーヌ」というビストロとカフェがあって、あれはすごいですよね。都市公園では2%しかああいう営業に使いえなかったのが、今10%まで緩和されてできるのです。先ほどおっしゃったように、あそこは日常をパークマネジメントする場所を担ってほしいなと思います。試合なんて限られていますよね。

【山口知事】

- ・そうそう。

【原田委員】

- ・あれは本当に限られている。

【山口知事】

- ・滑り台として置いてないじゃないですか。適当に滑ればいいという。

【原田委員】

- ・うん、そうそう。昔は遊具じゃないですよ。

【山口知事】

- ・そうそう。

【原田委員】

- ・だから、コンセプトががらっと変わっているので、そういう本当に自然ににぎわいができる場所、あそこに行かなきゃいけないよねというふうなショーになるといいなと思います。だから、その可能性はあるし、やっぱりクオリティーの高い飲食等を置かないといけません。レストランのチェーン店などはちょっと違うなというイメージです。わざわざあそこに行かなきゃいけないようなパークマネジメントをやっていたらいいなと思いました。

【坂元委員長】

- ・ はい、ありがとうございます。ほか、いかがでしょう。
- ・ 一応今回の議論の中心は「観る」スポーツということになりましたけれども、こちらのお三方から何か思いなり、要望なりありましたら。

【山口知事】

- ・ 広島を見に行ったら、湯崎知事の話聞いたんですよ。湯崎知事の前の話だったらしくて、あれ、結構金がかかって困ったという話で、特に地下を埋めたんですかね。

【今委員】

- ・ そうです。

【山口知事】

- ・ そう。僕がなぜシンプルにと言ったかという、何か難しくやって、プロバスケみたいなやつを置いたら、もうすぐ動かなくなってしまって、だから、あんまり難しくしないで、シンプルで感動させるようにしたほうがいいよと、知事が言っていました。

【今委員】

- ・ アメリカにあまりああいうへんちくりんな形の施設というのはないのですよね。先ほどのビデオにあったアリーナなんか、特殊な事例があったんですけど、せっかく知事もいらっしゃるので、佐賀県さん全体にお願いしたいんですが、さっきもちろっとお話ししたんですけど、恐らく佐賀県内の、県庁内にある全ての部署の総合力で今までにない発想でこの整備エリアを何かそういう、今までにないようなエリアを仕上げしてほしいなと思うんですよ。
- ・ 恐らくそれは既成概念があると、もう全然役に立たないので、まずは若い人からベテランの方も、とにかくいろんな発想を持ち寄って、佐賀県らしいまとめ方をしてほしいなと思います。
- ・ これは稚拙な例なんですけれども、20年前に東京ドームでNBAのゲームをやることになって、誰に聞いてもばかじゃねえのという話をされました。実際に東京ドームに4万人、2日間、8万人入れました。人間やればできるんですよ。既成概念で捉えている考えって、もう本当に小さいことだけだと思っし、日本の行政って、本当にそういうふうに見られているんじゃないですか。じゃなくて、「佐賀県って何？」っていうぐらいのチャレンジを今回の整備計画にしてほしいなというふうに思います。

【坂元委員長】

- ・あと、いかがでしょう、スポーツを代表して御意見等ありましたら。

【竹原委員】

- ・そうですね、トータル的に、東、西、中央で役割分担をしながら、エリアの中でどうするかを考えると、知事を筆頭にスポーツの組織をしっかり作って県民全員がこれに関わってもらうような仕組みづくりをイメージしています。スポーツの各ジャンルのプロとかが、全県にうまく配置され、それを九州全体の中でスポーツのOBとかレジェンドが佐賀にいるみたいなのも一緒に考えていくような今まで考えていないアイデアもいっぱいあるので、そういうのをちょっとやってみたいなと考えています。
- ・実は、私たちスタジアムを使わせてもらっていますが、売店は自分たちで決められず、行政側が決めています。昔から入っているということで、その売店は無料でそこに入れるとか、ちょっと私たちにとっては満足できないこともあるので、やはり全ての人に関わる仕組みを作っていくといいなと思います。
- ・アリーナの使い方も、1週間まちのイベントをずらっとしていくというような発想があるんです。九州全体で使えるごみ袋をつくって、行政にはそのごみ袋を買って帰ってもらい、それがスポーツの大会を開きますとか、全員巻き込んでいくということをしなないと一部の人が来ても難しいと思います。マネタイズの問題もありますので、本当に全員が参加しているというふうを感じる仕組みをまずつくって、県民全体、九州全体で使ってもらうことを考えています。プロスポーツとしてやっているのだから、ぜひとも何か、今と全く違うところでやってみたいですね。

【山口知事】

- ・ぜひアドバイスいただきたいのは、私はまだ2年間だけど、行政はそれぞれの部署ごとに脳を入れ替えているわけ。僕はもちろん知事だから、全体としてどうということを考えるわけですね。ところが、よくありがちなのは、障害者の課の人は障害者の話しかしていないわけ。別にそうじゃないからって、ユニバーサルデザインで障害者のことを言っても全然構わないのに、なぜかそれはその課にしか代弁できなくて、ただ、本当に心地よいものをみんなで作るようなこと、さっきから皆さんがおっしゃるトータルパッケージのようなもの。そういうトータルパッケージを持っている職員がいっぱい欲しいんだけど、そういう人って、実は少ないんです。だから、自分は何とか部の部長だから、何とか課の課長だから、下に行くと、もう私はこの担当だからという頭になっている。だから、自分が普通の県民として利用する立場でどう考えるのっていうのがすごく大事で、それがあって、それぞれの所属の専門性なんです。これは国の役所もそうなんです。だから、トータルで物を考えるような人材を育ててもらいたいんです。それができると行政マンでさえなると思いま

す。普通だったら国家しかできないことを、全部考えているんだねということになるんだけど、県庁の中だと、トータルで考えられる人間というのは、あいつちょっと変わっているねってなってしまう。わかりますか。

【竹原委員】

・わかります。

【山口知事】

・だから、私はどこかの部署におさまらない人間が割といっぱい、今、佐賀県庁に少しずつ増えてきているというのが心地いいからいいんだけど。ただ、この人たちをいかに使うのかというのが今度マネジメントの問題としてあるわけです。

【今委員】

・僕はもう 30 年ぐらい仕事をしていて、スポーツ界こそがまさにそうだと思います。

【山口知事】

・スポーツ界もそう？

【今委員】

・はい。スポーツのことは、僕の立場でいうとどうでもいいんですよ。それは選手とかチームがやりますから、僕らはその周辺をどうやって高めていくかというのが仕事です。ただ、そういう人材はスポーツにもなかなか入ってこないんです。お金ないんで。スポーツの場合はそうなんですが、行政組織は、もっととんがった人をつくって欲しいなと思います。行政ってスペシャリストが育ちづらい環境にありませんか？僕が見ていると、3年、4年で部署がかわっているように思います。それではなかなかスペシャリストが育たない。そうすると、外部の人間に 200%、300%のノウハウを求めるわけですよ。そこが僕の仕事なんですね。それだけのものを持っていないと相手から引き出せないの、それは少しもったいないなという気がしています。先ほどノウハウの話をしたのですが、そういった気がしました。それができないのであれば、先ほど言った総合力でいろんな部署から集めて、英知を結集して、そういうトライを試してみることしかないのかなと思います。

【山口知事】

・うちは、割と長いほうであるよね。

【白井局長】

- ・そうですね。

【山口知事】

- ・専門性があって同じ部署から離せなくて、結構それぞれが長くいることはあるけど、その長くいる人間に総合力を持ってもらいたいなというところでもあるんですよね。

【今委員】

- ・例えば設計会社さん、設計屋さんと話をする、僕みたいな人間は嫌がられるんですよ。徹底的に使う側からの話をしますから。そうすると、図面だけ書いている人間は追いつかないんですよね、実際に使うわけではないので。そういう人間が発注者である行政側にいるというのは、物すごく力になると思います。絶対悪いものではないです。

【山口知事】

- ・佐賀は、よその県でやっていない、1つのことはあるよね。全ての政策とか全ての箱物にクリエイターを通して。デザイナーを通してことによって、利用者の視点が必ず入ってくるので、設計者は嫌がるけれども、逆にいうとその単なるコンペでやると怖くてしょうがないね。

【今委員】

- ・いや、でもまさに本当にそうで、やっぱり建築の設計の現場を行くと、サッカースタジアムにも行ったこともない、サッカーもやったこともないという人が設計したりしているわけですよ。なので、本当に好きでわかっている、コミットしている人が魂を持って設計していないと、わかるんですよね。個別のスタジアムのことを言うとあれですが、ここはサッカー好きが設計しているとか、していないなというのは行くとやっぱりわかるですよ。まあ、サッカーだけじゃなくてスタジアム全般に言えることですが。
- ・やっぱりそういうやったことがある人間だと、使い勝手のこととあって、ちょっと知っているし、個人的にスポーツ見に行っている人だと、使っている人、活用者側、それからもっと言うと経営する側の意見とかも聞かないと盛り上がらないと思っているので、そのモードで設計をできる。だから、一技術者じゃなくてクリエイターの目線でちゃんと施設の設計とか空間もやっぱり組み立てていかないと、どうしても空間がおさまっているだけとなっちゃうんですよね。いや、本当に重要なことで、もう身にしみています。

【山口知事】

- ・本当だから、デザイナーやクリエイターはいい加減に仕事しない。サッカースタジアム使うのに、サッカー選手の話も聞かないで勝手にやったら終わっているということになるというのに。うちの佐賀デザインという部署は、ネクタイなんか全くしていないような人たちがウロウロしてて、この前も勝手にプレゼンをやったもんね。

【馬場委員】

- ・勝手にプレゼンフェスというのを去年の夏やらせてもらって、佐賀出身のクリエイター十数人が、知事初め県の上のほうの人たちの前で勝手に思いをプレゼンするというのを3時間半ぐらいやり続け、いや、でもすごかった。しかも、映画館を借り切ってやったんですが、熱気も半端なくて、みんなこれは絶対やるべきだと思えるものをプレゼンしているからすごく楽しかったし、そのうちの一部が、ちゃんと実現に動き始めるんですよ。

【山口知事】

- ・それやろうかってね。これはいわゆる白紙コンペ。普通、行政でやると、何か受注条件があって、それはクリエイターの頭の中を阻害するやつがいっぱい入っているけど、そこまで言うならあんた自分で考えて全部、県民の幸せのためにあえて提案してもらって、その中から幾つか採用になってやっています。

【馬場委員】

- ・これが行政の中で通るなら日本中でやればいいのにと思いました。

【山口知事】

- ・あと、議会にちゃんと説明しないと、そもそもそういうつもりやったと言っても議会に認めてもらえないとできないし。

【今委員】

- ・この場も、ここまで話しているのに話が通らないだろうなと思っていましたが、何か今回の形になっちゃっているんで、すごいなと思います。他ではこういうケースは聞いたことないので。まあ、普通は普通に建物を建てる計画におさまるんですよ。

【白井局長】

- ・結構議論はしましたから。

【今委員】

- ・委員はむちゃくちゃなこと言いますからね。

【白井局長】

- ・結構、無防備に何でも聞き入れてきました。

【山口知事】

- ・僕はこれだけのすごいメンバーが集まっていると僕は思っている。だから、そのメンバーに集まってもらっているから、とんでもなく色々な話が出て盛り上がったのだと思います。

【坂元委員長】

- ・Vリーグの意見をちょっといいですか。

【小早川委員】

- ・私もこの施設整備の委員会に思いを持って出席させていただいているんです。最初、佐賀県の施設をつくるということで考えたときに、日本の行政でいうと県の上から何番目で人口がどうで、財政がどうでなど、やっぱり日本でどういう位置づけかとか、佐賀と言えば何だというところを色々考えました。ただ、知事がおっしゃったように、物をつくるんじゃなくて、思いをつくるというか、やっぱり世界で一番のスポーツの場所になって欲しいなと今は思いますし、これから県で進めていただくにあたって、今の佐賀県のイメージは取っ払っていただいて、世界で最高の幸せを県民に届けるといふ意気込みで進めていただければ、まだこれは基本計画ですけど、最後まで行き届くものになるのかなと思います。
- ・私どもの、スポーツでいうと、今、佐賀県総合体育館でバレーボールをさせていただいていますけど、バレーボールを見にくるのにバレーだけしか興味がない人しかいないんですよ。逆に、サッカーとか野球とかを見ると、ビールを飲みに、会社の愚痴を言ったりとか、自由度が非常に大きくて、私もスポーツって、そのスポーツの競技の楽しさだけでなく、行くだけで家族が楽しめるとかそういったところを目指すべきだなと思います。
- ・そうなので、バレーボールをやるときも、周りに少し屋台とかをたてているのですが、あそこも非常に狭いのですよね。駐車場でとなると、動線から離れてしまってお客さんが見ないし、何を売っているかわからないという状況なので、これからつくっていただくときも、そういういろんな楽しみを求めてお客さんが来るような空間をつくっていただきたいなと思います。
- ・私、今日は鹿児島から入ってきているのですが、これは全九州中学校のバレーボール

大会というのが鹿児島であって、鹿児島の中学校の先生方、バレーを指導されている先生方と話をしてきました。その中で、退任された大御所の先生がいらっしたのでお話を聞いたところ、今は障害者のバレーボールのほうに携わっているということでした。それはデフバレーと言って精神障害と知的障害とに分かれているということでした。私どもトップリーグでやらせていただいていますけど、やはりそういういろんな方々がその競技に関わるということを考えると、我々も最高のパフォーマンスをすることを考えます。そういった方々も日頃から使いやすいというところには徹底的にこだわった、みんなに優しい施設にさせていただきたいなと心から思っています。

【坂元委員長】

- ・ 田部委員、いかがですか。

【田部委員】

- ・ 私はこの委員会に携わって、本当に見る人のための施設をつくるという方向にちゃんと収斂されたので、非常よかった、ここに来たかいがあったかなと思います。JTBというのは、するではなくて、見せるのが商売なので、その中で私の意見を結構反映させていただいて、非常にありがたかったです。自分の中に夢が膨らんでいます。
- ・ 今後、散々みんな言っていますけれども、やはり運営のあり方、事業のあり方というところをどういうふうに考えるかというのがポイントかと思いますので、テナントのあり方とか、全てにおいて、やっぱり日本初のものをつくって欲しいなと思います。
- ・ それというのは、知事もよく御存じかと思いますが、海外にいっぱい事例がありますので、その辺の情報をきっちりと集約してつくっていくべきかと思います。
- ・ 実はオリンピック関係でいうと、当社もオリンピックパートナーですから、オリンピック関係の会議があって、たまに顔を出しているのですが、彼らが全部本当かどうか調べてはいないんですけれども、裏側の中身をどうするかというところの議論が全くなされていません。いわゆるパネルを張ればいいでしょうという話だけで、そこにどういうコンテンツを流すのか、後はスマホにどういう連動をさせるのかとか、そういったところも含めて、まだまだ日本ではできていないと思っています。幾つかでき始めているんですが。
- ・ 先ほど今委員から話があったパナソニックの話も、実は裏側は全部シスコで、パネルがパナソニックという形らしいんですよ。シスコは世界で200のスタジアム、それから、アリーナの裏側も全部やっているという話もあるので、ちょっとそんな話を聞いているだけでもわくわくしてくるような話があって、今年の9月ぐらいに、みんなでシスコに視察に行こうというのを考えているので、もしお時間があればというようなお話です。

【山口知事】

- ・本当に運営面も、さっき言った佐賀らしいというか、新しいものというのをぜひ実現させたいなと思うんだけど、考えてみれば、JTBのときだよね、原田委員の講演を聞いたのは。私はその会場にいたんですよ。その時は、なるほどなとかいろいろ思いながら聞いていました。

【田部委員】

- ・そうですね。

【山口知事】

- ・今ね、日本マイクロソフトという会社がイノベーションセンターというのを佐賀駅前につくってくれて、これは西日本でうちだけなんです。そこの会長が佐賀がいいというので、この地になったんだけど、この会長、ついこの前やめて、ただの代表専務に入るとい電話がかかってきました。彼はすごく佐賀が好きでやっています。彼も面白くて、最初に学生のとときに佐賀に入ったんで。だけど、途中からマイクロソフトに行って、やっぱり請われてまた戻るとい。そこで、佐賀が大事と思っている。

【原田委員】

- ・劇的に変わっていますね。業態を変えようとしています。もうからないんでしょうね、物づくりは。

【田部委員】

- ・パナソニックは、最近オリンピック関係の講演会でもそういう話ばかりしているんですね。原田さんがよく御存じだと思いますが。

【山口知事】

- ・システムとか運営とかそっちの方に移っているんだろうね。

【田部委員】

- ・もうそっちですね。そんなプレゼンテーションばかりしています。

【原田委員】

- ・社会問題にも解決する企業に変わっていかうということですよ。

【竹原委員】

- ・ガンバのスタジアムもそうやって関わっているようです。芝生の養生の実験やっていますよ。

【山口知事】

- ・ああ、そうか。もう今できているんだっけ。

【竹原委員】

- ・完成していてLEDで芝生を育てています。

【山口知事】

- ・それはいいね。

【原田委員】

- ・誰がこの総合運動公園を運営するのかということを考え始めていて、従来の指定管理制度の3年、5年ぐらいのスパンじゃ、現状維持が精いっぱい、10年もたてば改修費用を誰が出すんだみたいな、そこでもめちゃうんですが、だから、それをコンセッション、PFI方式にされて、どっかの事業者が責任を持って稼ぐというやり方がいいと思います。幸い合宿施設もできるということなので、そこでキャッシュフロー持ちますし、テナントとしてのカフェとかレストランが入って、もしVと、仮に将来的にBですよ、バスケットができて、バレーができると、その両輪でやると、佐賀の駅前一带が何となく盛り上がるというまちづくりにつながるといことになるんです。

【山口知事】

- ・そういうことを地元の人たち中心にやってもらいたいなっていうも思います。佐賀の問題はいつも外でしょう。外のほうから入ってきて、地元の仲間たちでつくり上げたものが少ないと思う。

【坂元委員長】

- ・時間となりました。
- ・知事、本当に分刻みで申しわけありません。時間が大分過ぎちゃいましたので、先に知事をお見送りしましょう。どうもありがとうございました。

【山口知事】

- ・今日はこの中でいろんなことが話せてよかったです。ありがとうございました。

【坂元委員長】

- ・ありがとうございました。お世話になりました。

【山口知事】

- ・これからもずっと御指導いただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

【坂元委員長】

- ・局長、最後に御挨拶を。

【白井局長】

- ・最後になりましたが、6回に渡り熱心な御意見、御討議、ありがとうございました。先ほど今委員からもありましたように、本当に思っておられることを何でも言っていた委員会だったなと思います。ただ、何かすばらしいものをつくろうと思って御発言いただいているものをずっと集大成すると、こういう形になったと改めて思っております。そういう意味では、日本初とか、あるいは世界に通じるような、そういったものにしていきましようみたいな話は、私どもも本当にそのとおりだと思っておりますし、そういうことでまた引き続き基本設計、実施設計とか、みなさまの意を酌んで、意を用いて取り組んでいきたいと思っております。
- ・また、それに当たりまして、これからも引き続き御意見をちょうだいしたいと思っております。今回の6回の委員会に懲りずに、また引き続きよろしくお願いします。本当にありがとうございました。

【坂元委員長】

- ・ありがとうございました。
- ・それでは、6回目の会議を閉じさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。